

第5学年1組 国語科学習指導案

指導者 植田 有里

研究テーマ	自分の考えをもち、生き生きと伝え合う児童の育成 —読むこと・書くことを中心にした多様な言語活動を通して—
-------	---

- 1 単元名 動物と人間のかかわりをえがいた物語を書こう「大造じいさんとがん」
- 2 つけたい力
登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめる力
- 3 目 標
 - 物語に興味をもち、登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、読み味わおうとする。 (関心・意欲・態度)
 - 構成を考え、筋道の通った物語を書くことができる。 (書くこと)
 - 登場人物の相互関係をとらえ、人物の心情を読み取ることができる。 (読むこと)
 - 物語を読んで考えたことを友達と交流し合い、自分の考えを深めることができる。 (読むこと)
 - 擬声語、擬態語の表現が物語を生き生きと表現していることに気付くことができる。 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)
- 4 単元について

(1) 教材観

本単元は、学習指導要領の第5学年及び6学年の内容「C 読むこと」の指導事項「エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。」及び「オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。」に関連している。

本教材文は動物文学の第一人者として知られている椋鳩十の「大造じいさんとがん」である。狩猟を業とする「大造じいさん」とがんの頭領である「残雪」との生存をかけた激しい闘いと、それを通して生まれた、大造じいさんの残雪への感動がこの物語の主題となっている。いまいまでも思いつく限り「たかが鳥のこと」と考えていた大造じいさんが、残雪の知恵や勇気、頭領らしい堂々とした態度に感動し「ただの対しているような気がしない」というまでに変化する心の動きが、リズムカルで簡潔な文体で生き生きと描かれている。印象に残る色彩を伴う表現、比喩、擬態語、擬音語などによる自然描写や人物描写も巧みである。子どもたちは、物語の世界に入り込み、大造じいさんと残雪の対決にわくわくしながら、読み進めていくだろう。傷つきながらも誇りを失わない残雪と、狩人としてのプライドをもつ大造じいさんの対決を通して、大造じいさんの心の変化に気付く、自然と人間との在り方を考えることのできる教材である。

(2) 児童の実態 (在籍**名)

<意識調査> *月*日 **名実施

①	読書は好きですか	はい *名 ふう *名 どちらでもない*名
②	文章を書く活動は好きですか	はい *名 ふう *名 好きではない*名
③	物語を書いたことはありますか	ある *名 ない *名

<実態調査> 「注文の多い料理店」テスト結果より

	問題の要点	正答	誤答	無答
①	注文の内容を読み取り，文章中から抜き出す。	*名	*名	*名
②	登場人物の心情を選択肢から選択する。	*名	*名	*名
③	「・・・」にこめられた意味を自分の言葉で記述する。	*名	*名	*名
④	情景を読み取り，適切な単語を文章中から抜き出す。	*名	*名	*名

意識調査①の結果から、読書に興味をもっている児童が多いことが分かる。それは週に2回の読書タイムに集中して取り組む姿、休み時間に図書室を利用する児童が多いことから伺える。5年生1学期に「注文の多い料理店」の学習を行い、「ショーウィンドウ」を作成した際には、宮沢賢治の作品を読み比べたり、感想を交流し合ったりする活動にも意欲的に取り組むことができた。意識調査②の結果からは、書く活動を苦手と感じている児童が多いことが分かる。毎週火曜日朝のぐんぐんタイムの「100マス作文」に取り組む姿を見ても100文字程度の作文を書くのに時間がかかるのが実態である。自分の書いた文章を読み返さない児童もおり、表記や文末表現に間違いのある児童もいる。また、自分で物語を書くという経験のない児童が大半なので、5年生1学期に学習した物語の構成「設定」「展開」「山場」「結末」を使って、筋の通った物語が書けるよう、教材の中でもきちんと構成を確認し、文章全体の構成の効果をおさえるべきことが実態調査から明らかである。

実態調査からは「①注文の内容を読み取り，文章中から抜き出す」設問の誤答が多いことが分かる。必要な一文に焦点をあてられず、余計な文章まで抜き出してしまいう児童、勝手に短く作文してしまう児童がいる。叙述に即して正しく文章を抜き出すという力が未定着なことが分かる。

友達と交流し合う活動では誰とでも意見交換ができるようになってきている。しかし、全体での話し合いはまだ限られた児童によって進められていることが多いのが学級の実態である。

(3) 指導観

「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること」が本単元の重点指導事項である。教材「大造じいさんとがん」文章中の、がんをとるための三つの計略とそれぞれの計略に対する残雪の行動をたどると二者の知恵比べ、大造じいさんの執念を感じることができる。残雪の壮絶な闘いぶりや、毅然とふるまう態度、美しいものや素晴らしいものに感動する大造じいさんの心を十分に読み味わわせ、大造じいさんの心情の変容を中心に、物語を読み深められるようにする。

単元の導入（第1次）では、椋鳩十作品のブックトークを行う。椋鳩十作品の魅力である動物とのかかわりから登場人物がどのように変容するのか、動物への愛情や自然の摂理の厳しさのえがかれ方に触れ、学習意欲を高められようにする。そして、動物と人間のかかわりをえがいた作品の奥深さに気づかせるようにしたい。単元を貫く言語活動である「動物と人間のかかわりをえがいた物語を書こう」という学習ゴールを提示し、めあてをもって学習に取り組めるようにする。また、文章を書くことが苦手な児童にとっては、物語を書くという学習は抵抗があることが予想される。椋鳩十作品や動物と人間のかかわりをえがいた作品を十分用意し、並行読書の時間も確保する。そして、読んだ作品の中から設定や展開など第3次で物語を書く学習で、参考にして良いことを伝え、並行読書にも意欲的に取り組めるようにしたい。

第2次では、「大造じいさんとがん」の、大造じいさんの心情の変化を見つける学習過程で「グループの交流タイム」を設定する。自分の意見と比べながら聞き、交流によって自分の考えが深まっていくような話し合いが進められるよう、交流タイムを有効に活用していく。友達と意見を交流することで思考力・判断力を養っていきけるようにしたい。

第3次では、第1次、第1次での学習を想起し、構成の効果、表現の効果を考え、物語を書

く。構成では「山場」に中心人物の気持ちや状況がもっとも大きく変容するしかけがあることをおさえ、中心人物が何によってどのように変わるのか（変わらないのか）、考えさせるようにする。そして、自分が考えた構成メモを友達と交流する時間を設け、アイデアをもらおう。友達との交流で意見をもらい、良い作品を作ろうとする意欲を高められるようにしていきたい。

(4) 研究テーマとの関連について

本単元では、学習指導要領「B 書くこと」の第5学年及び6学年の言語活動例「ア 経験したこと、想像したことなどを基に、詩や短歌、俳句をつくったり、物語や随筆などを書いたりすること」に関連させて、「動物と人間のかかわりをえがいた物語を書く」を単元を貫く言語活動とする。この言語活動を通して、文章全体の効果を考え、表現の効果について工夫する力をつけたい。

第2次、第3次を通して、自分の考えをきちんとつ→交流タイムで意見を交換し、考えを再構築する、という流れで学習を進める。そのような学習を積み重ね、研究テーマに迫れるようにしたい。

5 学習計画（11時間扱い）

次	時	主な学習活動及び学習形態	教師の評価規準及び評価方法
1	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">「棕鳩十作品ブックトーク」を聴こう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ブックトークを聴き、棕鳩十作品にはどのようなものが多いか話し合う。 ・学習の最後には、動物とのかかわりをえがいた物語文を書くというゴールを設定し、単元の見通しをもつ。 【一斉】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">動物と人間のかかわりをえがいた物語を書いて、井野小学校のみんなに読んでもらおう。</div>	<p>(関) ブックトークで紹介された本や動物と人間のかかわりをえがいた本を読み進めようとしている。</p> <p>【評価方法】 行動観察・読書カード</p>
2	2 3 4 5 ⑤ 7	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">動物と人間のかかわりをえがいた物語を読み深めよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> 2 ・物語全文を音読し、全体の構成をつかむ。 【個人・グループ・一斉】 3 ・人物の設定とあらすじをとらえる。 【個人・一斉】 4 ・大造じいさんが行った3つの作戦の内容、残雪の行動、大造じいさんの思いをまとめる。 【個人・グループ・一斉】 5 ・作戦ごとの大造じいさんの気持ちの変化を読み取る。 【個人・グループ・一斉】 ⑤ ・大造じいさんの気持ちが変わったのは、何によってなのか、根拠を示しながら考える。 【個人・グループ・一斉】 7 ・物語を一文で書く。 【個人・グループ・一斉】 	<p>(関) 物語を楽しんで読み、これからの学習に意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>【評価方法】 発表・ノート</p> <p>(読) 三つの計略について読み取り、会話や行動を基に大造じいさんの気持ちを捉えている。</p> <p>【評価方法】 発表・ノート</p> <p>(読) 大造じいさんの心情を捉え、自分の考えをまとめている。</p> <p>【評価方法】 発表・ノート</p> <p>(言) 比喩の表現の工夫について理解している。</p> <p>【評価方法】 ノート</p> <p>(読) 物語の内容をとらえ、一文にまとめている。</p> <p>【評価方法】 発表・ノート</p>

3	8 9 10	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">動物と人間のかかわりをえがいた物語を書こう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・物語の書き方を学ぶ。 【一斉】 ・登場人物，物語の「設定」「展開」「山場」「結末」の構成を考える。 【個人・グループ・個人】 ・場面の様子や人物の気持ちを工夫して，筋道の通った物語を書く。 【個人】 	<p>(関) 文章全体の構成の効果を考えて物語を書こうとしている。 【評価方法】 行動観察・ノート</p> <p>(書) 文章全体の構成を考えながら，物語を書いている。 【評価方法】 作品</p>
4	11	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">物語の発表会をしよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・作った物語を読み，感想を交流し合う。 【一斉】 	<p>(関) 友達が作った作品のおもしろさや表現の工夫について，感想を伝え合っている。 【評価方法】 行動観察・ノート</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">井野小学校のみんなに物語を読んでもらおう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・作った物語を図書室に置き，井野小学校のみんなに読んでもらう。 【一斉】 		

6 本時の学習

(1) 目標

大造じいさんの気持ちが変わったのは何によってなのか，根拠を示しながら考えることができる。

(2) 準備・資料

・物語のモデル作品 ・掲示資料

(3) 展 開

学習活動及び内容	教師の指導及び支援と評価
<p>1 学習範囲を音読する。</p> <p>2 本時の学習課題をつかむ。</p> <div data-bbox="177 488 700 584" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"><p>大造じいさんの気持ちを変えたのは何だろう。</p></div> <p>3 自分の考えをノートに書く。 【自分タイム】</p> <ul style="list-style-type: none">・残雪がじいさんのがんを守ったから。・残雪がはやぶさと戦っている姿に感動したから。・鳥とはいえ頭領らしく堂々としていたから。 <p>4 友達と考えを交流し合う。 【交流タイム】</p> <p>5 全体で考えを交流する。</p> <p>6 本時のまとめをする。</p> <p>(1) 学習を振り返る。</p> <p>(2) 次時の学習を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none">・一斉に個人音読を行い、本時の学習範囲を確認できるようにする。・大造じいさんの心情を想像しながら、会話文は感情を込めて読むよう助言する。・大造じいさんの気持ちが変わった場面であることを確認し、本時の課題につなげる。・前時までに学習した、大造じいさんがしかけた計略の内容と大造じいさんの心情を掲示しておき、本時の課題が明確につかめるようにする。・前時までの学習を振り返り、大造じいさんの気持ちを変えたのは何かを話し合うことを伝える。・擬声語、擬態語により表現が場面の様子が生き生きと表現されていることをおさえる。 <p>・自分の考えを書き表すことができるとともに、その考えの根拠となる叙述を明確に示すことができるよう時間を確保し、机間指導により個に応じ、助言する。</p> <p>・ノートを二段に分け、上段に自分の考えを書くよう指示する。</p> <ul style="list-style-type: none">・友達と交流し合い、意見を交換させる。文章中の叙述を引用しながら叙述に即して正しく読み取るよう助言する。・友達の意見はノートの下段に書くよう指示する。・友達との意見の交流により、自分の考えを付加、修正する場合は、新たにノートに書き加え、自分の読みの深まりに気付けるようにする。 <p>・自分の読みを付加、修正することにより読みが深まることを伝え、自由に発言できるようにする。</p> <p>・友達の意見を取り入れながら、自分の考えを発表させる。理由をつけたり、考えとその根拠を示したりしながら、自分の言葉で説明できるようにするとともに、声の大きさや話し方に気をつけさせる。</p> <p>(評) 大造じいさんの気持ちが変わったのは何によってなのかを自分の言葉でまとめている。</p> <p style="text-align: right;">【ノート・発表】</p> <ul style="list-style-type: none">・考えをまとめるのに戸惑っている児童には、友達の考えを参考にして良いことを伝え、再構築できるよう声をかける。・次時は物語を一文で書き表し、第2次のまとめであることを知らせる。